
遊戯王 ああっ破滅の女神さまっ

ダルクス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 ああつ破滅の女神さまっ

【Nコード】

N2849Z

【作者名】

ダルクス

【あらすじ】

ある日、死んだ父の形見として、主人公の元に届けられた二枚のカード。それは世界を破滅させるほどの力を持つカードの精霊、『破滅の女神ルイン』を宿すカードと、彼女専用の儀式魔法『エンド・オブ・ザ・ワールド』のカードだった。これは、数奇な運命に翻弄される一人の青年、そして「破滅」の力を司る女神と、彼らを取り巻く精霊たちの長きに渡る闘いの物語である…。

第1話：「出会い」（前書き）

皆さん初めまして、ダルクスと申します。

このサイトで小説を書くのは初めてなのですが、皆さんのご期待に添えられるよう、頑張っていきたいと思えます。

この作品の舞台は5D・sの延長線上の世界となります。

5D・sとZEXALの中間あたりだと考えていただきます。

故に、シンクロモンスターもモンスターエクシーズに加え、原作、アニメ、ゲームのキャラも登場予定です。

主人公はオリジナルの主人公です。

それでは、始めさせていただきます。

第1話：「出会い」

…「デュエルモンスターズ」。

名前を聞いたことがない人はまずいないだろうと言われている、この全世界で爆発的なブームを巻き起こしているカードゲームには、ある一つの不思議な噂がある。

それはごく稀に、このゲームを心から愛している者の前にだけ現れるといわれているカードの精霊の存在…。

これは、数奇な運命に翻弄される一人の青年、そして「破滅」の力を司る女神と、彼らを取り巻く精霊たちの長きに渡る闘いの物語である…。

第1話「出会い」

…親父が死んだ。ついひと月前の事だ。

俺の親父は考古学者だった。常に世界中を旅して渡り、帰ってくるのは一年に片手で数えるくらい。たまに帰ってきたかと思えば、怪しい発掘品やオーパーツを土産に渡される始末。はつきり言ってダメ親父の印象しかない。

しかし、そんなダメ親父でも、死んだと連絡が入ったときは悲しかった。

たった一人の息子を残して、親父は外国の遺跡発掘の調査の途中に落盤事故に遭い、そのまま帰らぬ人となった。

親父には兄弟も親戚もない…故に俺を引き取ってくれる身内などいなかった。しかし、親父が死んだ後も、寂しいという気持ちには不思議とならなかった。きっと、親父の帰ってこない生活に慣れてしまっていたからだろう。

そんな親父の葬儀も終わって一段落し、ひと月ほど経ったある日、俺の家に小包が届いた。差出人は親父の研究グループの一人からだった。

包みを開くと、まず差出人が書いたと思われる手紙が入っていた。

『君のお父さんが自分にもしもの事があった時、君に渡してほしいと言われていた物だ』

手紙にはそう書かれていた。改めて届けてくれた物を見る。

「箱…？」

それは小さな箱だった。いや、おそらく親父が渡したかった物はこの中に入っているのだろう。

俺は蓋に手をかけ、ゆっくりと開ける。

「これって…カード？」

箱の中身はデュエルモンスターズのカードだった。箱をひっくり返して、掌の上にあけてみると、二枚のカードと一枚の紙切れが落ちてきた。

俺はまず、紙切れの方を手にとってみた。そこには親父の字で、こ
う書かれていた。

『某国を冒険中、私は精霊が宿るといわれているこのカードを発見
した。だが精霊が出現するのは限られたデュエリストの手に渡った
時のみと言われている。どうやら私はそれに値する人間ではないら
しい…。お前になら、このカードが応えてくれるだろうと、私は信
じている』

相変わらず、実の息子に宛てたとは思えないほどに堅苦しい文面の
手紙を見て、俺は少し懐かしい気持ちになった。

そして改めて、カードの方を手にとってみた。最初は半信半疑だっ
た。確かに俺も精霊の噂は聞いたことがあるが、それは所詮噂程度
の物だと思っていた。

また紛い物を掴まされたんじゃないかと思い、まじまじとカードを
眺めてみる…。その時だ！

カッ！

「うわっ…！？」

突然カードが光を放ち、俺は思わず握っていた二枚のカードを床に
落とし、後ろに倒れ込んで腕で目を覆った。

光が止み、ゆっくりと目を開けてみると…。

「…？」「汝、世界の破滅を望む者か？我が主よ…。」

目の前には一人の女性が立っていた。
流れるような銀色の長髪…碧い瞳…そして手には赤いロッドを握っている。

「だ…誰…？」

面喰っている俺に対し、その女は静かな声で答える。

??? 「我が名は『破滅の女神ルイン』。主のお呼びに与り、ここに顕現した」

これが俺と、破滅の女神ルインとの出会いだった…。

「…どうしてこうなった」

今、自分のことを「破滅の女神」と名乗った謎の女性ルインは、居間でこの状況を頭の中で必死に整理している俺の前に対峙して正座している。

「え〜とつまり…死んだ親父から送られてきたカードが実は本当に精霊の宿るカードで、あんたはそのカードに描かれている破滅の女神ルイン本人だっというのか？」

ルイン「その通りだ、主よ」

「マジかよ…」

今まで親父から送られてきた物は、みんな紛い物か偽物ばかりだった。今回もきつとその類だと思っていたら…親父の奴、最後の最後でとんでもない物を置き土産に置いてきやがった。

ルイン「主よ」

「…ん？」

ルイン「主はもしかして世界の破滅を望んで私を顕現させたわけではないのか？」

「いや、残念ながら…俺はこの世界を一度も破滅させようなんて思ったことはないし、あんたを呼ぶ気もなかった」

ルイン「では何故…？」

「こつちが聞きてえよ…」

でもまあ…呼んじまったもんは仕方ない。わざわざ呼んでおいて「帰って下さい」なんて言えないし、それにこの人…：なかなか美人だし…。

ルイン「ん？何か言ったか主？」

「い、いやなんでもない！まあとりあえず、あんたが本当にカードの精霊だっというなら何か精霊らしいことをしてみてくれ」

ルイン「精霊らしいこと…？」

「そつだ。あんたが普通の人間じゃないっていう証拠を」

ルイン「ふむ…わかった」

そう言つてルインは立ち上がり、家の縁側の方に歩み寄っていく。

「…？」

なにをするつもりだろう？と疑問に思いつつ、その様子を見守る。ルインは縁側の戸を開け、庭に向けて手を持ったロッドを翳す。すると…。

ルイン「…ハッ！」

短い掛け声があがり、ロッドの先から火の玉が放たれ、庭に飾つてある灯籠に命中に、粉々に碎け散つた。

「なっ…！？」

ルイン「どうだ主、これで満足か？」

若干誇らしげな顔で俺に語りかけるルイン。

「え…？あ…はい…すごい…ですね」

ルイン「こんなもの、私の力の一部にすぎない。なにはともあれ、これからよろしく頼むぞ、主」

呆然とする俺の前でルインはさらに誇らしげな顔をした。

「は、はい…」

軽い気持ちでルインを迎え入れたのだが…どうやらとんでもなく「」
とになりそうだ。

第1話：「出会い」（後書き）

皆さん初めまして、この度この小説を書かせていただくダルクスと申します。

何故よりによつて破滅の女神ルインなのかって？

答えは簡単、私が好きだからですw

なにはともあれ、これからよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2849z/>

遊戯王 ああっ破滅の女神さまっ

2011年12月10日01時10分発行